

編集室

大殺界

今年から3年間私は大殺界に入るらしい。そんなもの毎年チェックしているわけもないのだが、たまたまある筋から耳に入った。ここ2~3年で人生の変化を予感してただけに若干気分が悪い。

そもそも占いには恨みがある。高校時代、自分の姓名の字画が悪いことが判明した。曰く「努力をしても精神的な弱さが出て物事が成功しない(だったか)」とのことで、そのころの友人が「へー、よく名前だけでよくそこまでわかるものだなあ」なんていったものだから雷に打たれたように打ちひしがれた。もっとよく調べたかったけど、占いの本なんて読んでいるのを人に見られたら大変なので本屋でコソコソ立ち読みして回った。そうとう挙動不審だっただろう。今から思えば占いなんて誰にでも当てはまることを言っているだけで、そんなものに振りまわされた自分が情けない。改名した(漢字を変えている)演歌歌手などみると、まあなんとというか“まるビ”な感じだなと思う(まるビ、ある一定の世代の人しか伝わらない死語だと承知だが他にいい表現が見つからない)。

しかしながら物事の成り行きにはツキとか流れがあることは事実。とくに勝負関係ではチャンスで失敗するとツキを落として必ず大ピンチが巡ってくる。あのツキの正体は何なのか? ツキを味方に決勝打をはなった選手のヒーローインタビューでは何を聞いてもだいたい「必死で食らいつきました」以上の情報は得られない。どんな努力をしても報われないことも多いなか、なんとか神様、運をくださいと縁起を担いだり、占いを頼りにする気持ちが人間の太古から心の奥にあることは否めない。

オイディプスの話がある。「父を殺し

母と交わるだろう」という予言から逃れようと苦しむオイディプスがめぐりめぐって結局予言通りのことをしてしまう。この話の面白い解釈は、オイディプスが「予言さえ聞かなければ何も起こらなかった」というものだ*。身も蓋もないが(笑)。つまり人間社会では「みんながなんとなくそうじゃないか」と思う方向に動いてしまい、なんの根拠もない誰かの一言(あるいは風評)が自己成就してしまうということを行っている。経済政策や投資の成否、株の予測は全く思い通りにならない、という話である。

このはなし、空論を語っているのではない。けっこういい歳になってきたので自分や自分と同じ世代の人間が大きな決断を迫られるのを目の当たりにすることが多くなったのだ。例えばわが三原市医師会では看護学校をどうするのか、病院運営を人口減少にどう対応するのか、すべて「今後どうなるのか」不確かな予測を元に未来図を描かなければならない。そこに大きなお金が動き人々の人生が動く。まったく占いにも頼りたくなることだ(コンサルタントやエビデンスやガイドライン。これらはみんな現代の占いといってもいいかもしれない)。

氷川清話という本があるのは知っていたが読んだことはなかった。勝海舟ってすごく面白いおじさんだったのだと知った。その中で印象に残ったのは次の言葉だ。「苦しくともそれを顔に見せずじっと辛抱しておればいい。呼吸を感得するのが学問だ。いいことばかりじゃないだろうけどいい時も悪い時もめぐってくるさ」。

(小園 亮次)

*ヤニス・バルファキス 父が娘に語る(美しく、深く、壮大で、とんでもなくわかりやすい) 経済の話

広島県医師会速報 2020年(令和2年)2月15日

- 発行所 / 一般社団法人 広島県医師会 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番3号 TEL:082-568-1511 FAX:082-568-2112
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: kouhou@hiroshima.med.or.jp
- 編集者 / 広島県医師会長 平松 恵一
(広報委員)山中 祐介、小園 亮次、加世田ゆみ子、片山 紀彦、小山 祐介、隅田 昌之、田中 民江
谷 充理、津田 敏孝、檜山 桂子、吉田 良順、桑原 正雄、岩崎 泰政、藤井 康史
- 印刷所 / レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL:082-844-7500 FAX:082-844-7800